

対象事業：ミュージアムを核とした地域文化資源の整備・活用に係わる事業

事業名：博物館周辺文化財の複合的活用事業

事業者名：博物館周辺文化財の複合的活用事業実行委員会
(事務局埼玉県立嵐山史跡の博物館)

連携館等：比企地区各市町村教育委員会、
東京都江戸東京博物館、葛飾
区郷土と天文の博物館、日本
ウォーキング協会、中世を歩
く会、埼玉城郭探訪会ほか

住所：埼玉県比企郡嵐山町菅谷 7 5 7

TEL：0493-62-5652

FAX：0493-61-1060

HPアドレス：<http://www.ksky.ne.jp/~ranzansi/>



嵐山史跡の博物館全景

①施設の概要

実行委員会の事務局を置く埼玉県立嵐山史跡の博物館は、国指定史跡菅谷館の中に所在し、中世の城館や出土品などを研究・展示対象とする博物館である。

②事業の意図目的

地域の人々や民間団体と連携して博物館事業を展開することにより、さらに開かれた博物館を目指すとともに、博物館周辺地域の歴史的環境を的確に把握し、博物館及び文化財の有効的な活用を図ることを目的とする。

③事業概要

埼玉県西部の丘陵地帯にある城郭等の中世文化財の活用を主な目的として、以下の事業を実施した。

シンポジウム「後北条氏の城―合戦と支配―」

統一テーマ「最新成果！戦国城館」のもと、東京都江戸東京博物館、葛飾区郷土と天文の博物館と当館が連続してシンポジウムを行った。

城館跡ガイドブックの刊行

埼玉県西部に多数点在する城館跡を核とした文化財のガイドブックを作成した。

城郭ハイキング・お城ツアー

また、ガイドブックを活用した「城郭ハイキング」とバスを利用した「お城ツアー」を開催した。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 ポスター・チラシ（5種類）

作成した報告書等 ガイドブック「歩いて廻る 『比企の中世・再発見』」

シンポジウム資料集

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 1,429人（シンポジウム・お城ツアー・城郭ハイキング）

※参加者はすべて大人

(1) 事業の実施状況について

● 諸準備

具体的な準備に入ったのは事業採択の内諾を得た6月20日直後からであった。
以下、時系列で、諸準備の実施日程を記す。

6月下旬

ガイドブック目次案と見本原稿を作成

7月中旬

執筆依頼に各地訪問

7月13日

職員による城郭ハイキングのコース下見

8月上旬～下旬

ガイドブックのコース図検討・写真の収集・挿図作成。城郭ハイキング工程表・順路図の作成。比企地区各市町村教育委員会へ文化財担当職員の派遣申請及び第1回実行委員会の出席依頼状送付。

9月6日

第1回実行委員会開催

委嘱状交付・役員決定・事業内容説明・協議

9月13日

シンポジウム講師・司会者打合せ会議

シンポジウム日程案提示・各講師演題確認・発表内容検討・シンポジウム進行方法の確認・シンポジウム資料集執筆依頼

9月中旬

ガイドブック編集作業開始

用語統一・レイアウト及び体裁調和・部内校正

10月18日

第2回実行委員会開催

城郭ハイキングの準備と役割分担・当日の動員人数の確認と運営方法細部調整

11月6日

実行委員会・中世を歩く会合同の城郭ハイキングリハーサル

11月22日

日本・埼玉県ウォーキング協会による城郭ハイキングリハーサル

9月下旬～11月下旬

ポスター・チラシの製作及び配布

12月15日

ガイドブック納品

準備過程での計画変更及び広報について

- ① 職員の下見結果に基づく原案を、日本ウォーキング協会の奥野インストラクターに見てもらったところ、原案の1班50人の班編制では指導統制が不可能であり、1班20人とするようアドバイスを受けた。スタッフが不足していることを伝えると、協会からもスタッフを出すとのありがたい御申出を頂いた。

- ② 第2回実行委員会には埼玉県ウォーキング協会会長、日本ウォーキング協会奥野インストラクター、埼玉城郭探訪会長、中世を歩く会会長にも御出席を頂き、当日の動員人数の確認と運営方法について詰めを行った。その結果、①20人を1班とし、その先頭と末尾、できれば中間にも指導・引率者を付けること②脱落者を集めて帰路に導く第6班を設けることの2点が確認された。ウォーキング協会によるリハーサルの結果、③当初計画の大平山の峠を超えるコースを改め、景観がよく平坦な道である嵐山溪谷沿いを通ることに決定した。
- ④ ポスターとチラシは全事業を盛り込んだ事業広報用の宣伝媒体である。11月にはその配布と発送及び駅貼りポスター（JR及び西武鉄道）の業務委託を行った。広報はこのほかにホームページや埼玉県広報誌「彩の国だより」、比企地区各市町村の広報誌などで幅広く利用したため、情報が広く行き渡った。

● 城郭ハイキング

開催当日の12月16日は晴天ではあったが、雲が多く風のやや強い日であった。参加者は遠方の人も多く、開館前の午前8時頃から人が集まり始めた。このため予定を早めて8時30分には開館し、まもなく館の南側芝生に受付テーブルを出して、職員とボランティアによっていっせいに受付を開始した。諸注意とインストラクターによるストレッチの後、午前9時すぎに第1班から出発。嵐山溪谷沿いの道を進み、まず小倉城跡に登る。説明は5人の班長がガイドブックに基づいて行った。石垣の残りの良さ、虎口構造の精妙さなどが見所であった。

小倉城の見学が終わると、下里集落側に下山し、小川町の青山城を目指して進む。途中にある農村センターの建物で昼食とトイレ休憩をとってもらった。古い小さな施設ではあったが、コース中に公共施設とトイレがないため事前に申し込んで借用しておいたものである。昼食後、青山城に登る。麓からの比高差が300m以上ある険しい山城であり、今回の最大難所であった。事前に体調の悪い人や自信のない人はリタイアして第6班に編入してもらうようお願いしてあったので、登山中に立ち往生する人や怪我人が出ずにすんだ。青山城は眺望がよく、石垣の路頭や大掘切もあり、見応えのある山城である。

下山後、麓の円城寺で2連板碑を見学し、解散地の小川町役場前にゴールしたのは午後3時前後であった。総行程11kmの上級者向けコースであったが、ほとんどの方が完歩された。参加者の声は、一日がかりでゆっくり文化財に親しみ、健康増進にも役だったとするものが多かった。参加者は一般204名、ボランティア38名の合計242名であった。新聞記者の同行取材があった。

● シンポジウム

往復はがきでの申込受付の結



城郭ハイキング実施状況

果、520名に決定通知を行った。開催日は1月26日（土）・27日（日）の2日間であり、会場には博物館に隣接する国立女性教育会館の講堂を借り上げてこれにあてた。初日の開会は12時30分であったが、小鹿野歌舞伎の舞台準備が午前9時には始まり、多数のボランティアが9時45分に集合して、実行委員会長のあいさつ後、受付係、会場係、駐車場係に分かれて準備に取りかかった。

開会あいさつののち、中世に題材を取る無形文化財の公開という趣旨で、小鹿野歌舞伎保存会による「義経千本桜」が上演された。役者・下座・裏方の合計36人によって成り立つもので、上演時間は1時間であった。衣装や舞台も華麗であったが、役者の日ごろの精進が伝わってくる熱演であった。ひきつづいて池上裕子成蹊大学教授による基調報告「戦国大名北条氏と領国支配」が1時間30分の日程で行われた。村から見た領主と城という新しい観点に立脚した報告であり、参加者の知識欲を大いに刺激する内容であった。初日最後の報告はさいたま市教育委員会の青木文彦氏による「戦国城下町の成立—岩槻・松山・鉢形—」であった。発掘調査の成果と城絵図や古文書を付き合わせた丹念な発表であった。この日は講師、事務局のほかにも宿泊される参加者がかなりあった。

2日目は9時受付開始であり、準備は早朝から早手回しで行われた。9時30分から4本の発表が行われた。このうち「戦国大名北条氏の城」は滋賀県米原市教育委員会職員で城郭研究家の中井均氏の公演であった。杉山城を織豊期の陣城と対比する新しい見解が述べられた。

午後1時30分から討論が行われた。結論は「北条氏の城は前代の上杉氏の城を接収したものが多く、はじめから北条氏の城として築かれたのは八王子城を除くとほとんどない。今後は北条氏がそれぞれの城をどのように改造したのかということまで検討する必要がある」というものであった。

2日間の日程が終わると、参加者は新しい知見に満たされて充実した面持ちでそれぞれ帰路に就かれた。アンケートは現在分析中であるが、内容のレベルは適切とする人が多かった。また内容についてはおもしろかったとする人が、まあまあであったとする人を少し上まわっている状況であった。内容が多方面にわたり、考古学的な精緻な内容を含むため反応が二つに分かれたものと思われる。なお、つまらなかったとする人はごくわずかであった。ボランティアを含めた2日間の参加者総数は1,104名であり、過去最大の集客数となった。



シンポジウム「後北条氏の城」討論のようす

● お城ツアー

当該事業はバスを利用して4つの中世城館跡を廻るもので、100名を募ったところ、496名の応募があり、抽選によって参加者を決定した。前日に寒波が襲来

して雪が降ったが、天気予報では朝から晴天とのことであり、中止せず決行することとした。

開催当日は朝からよく晴れた。キャンセルは予想外に少なく、参加者は一般76名にのぼった。説明者等7名を含めた合計は83名であった。当日の運営については、積雪のある小倉城の見学を割愛し、午前中は企画展示の解説と菅谷館の案内を行い、午後から杉山城、松山城を訪ねることとした。菅谷館の見学は十分に時間をとり、西の郭なども案内したため好評であった。杉山城と松山城は所在町の文化財担当であり、かつ実行委員でもある村上・太田の両氏に御案内をいただいた。すべての郭を丹念にめぐったので、参加者に大いに喜ばれた。改めて比企の中世城館の文化財的価値の高さが認識され、午後3時すぎに散会となった。



お城ツアー見学状況

(2) 地域との連携について

実行委員会を比企地区各教育委員会の文化財担当者と事務局の当館職員とで構成したのは、従前から行っている巡回展示や過去のシンポジウムと同様であるが、とくに今回は、市町村だけでなく、城郭を愛好する埼玉城郭探訪会や中世を歩く会との連携をはじめ、健康づくりなどを推進している日本・埼玉ウォーキング協会などとも連携を図ることとした。

埼玉城郭探訪会と中世を歩く会のメンバーには城郭ハイキングとシンポジウムにおいてボランティアスタッフとして参画して頂いた。また文化財巡りには高齢化社会における健康増進という時代性があるため、ウォーキング協会の方々にウォーキングの運営と安全管理について指導をいただき、城郭ハイキング実施の大きな推進力となって頂いた。一つの小さな博物館単独ではなしえないような大規模な事業に取り組むことができたのはまさに連携の力である。

(3) 成果物について

事業に伴って製作した印刷物は次の通りである。普及媒体については催し物の参加者に配布したほか、協力団体や図書館等に配布した。今後、嵐山史跡の博物館と市町村教育委員会等の協力団体において文化財普及に活用していく予定である。

- ① 広報媒体
 - ・ポスター（B2判カラー・1,000枚）
 - ・チラシ（A4判表面カラー・裏面2色60,000枚）
- ② 普及媒体
 - ・ガイドブック「歩いて廻る『比企の中世・再発見』」（B6判カラー108ページ・10,000冊）
 - ・シンポジウム資料集（A4判一色136ページ・1,300冊）
 - ・チラシ「比企城館跡群」4種 菅谷館跡・杉山城跡・小倉城跡 松山城跡（A4判表面カラー・裏面2色60,000枚）

(4) 参加者の反応

城郭ハイキングとお城ツアー参加者の反応は、城や歴史に関する新たな知識を得

ることができたと同時に、山城を自分の脚で巡ったという達成感が加わって、非常に満足度の高いものであった。

シンポジウム参加者の反応は、2日間にわたって集中講義を受ける大学生さながらの緊張感を伴っていた。気鋭の講師陣による報告、討論の場ではすべての人が席を立つことなく熱心に耳をそばだてていた。アンケート集計結果では満足とする人が97%であった。しかし、一般普及事業とは異なり、考古学と文献史学の最新成果を盛り込んだシンポジウムなので、やや難しかったとする人が20%あったことも事実である。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

当館は職員6名の小規模博物館であるが、地域の諸団体と連携し、多くの人々の支援を得て、このような大きな事業を展開することができた。今後も、このような協力関係を維持していくことは、当館を運営する上でも、貴重な財産となるにちがいない。

(6) 新聞記事等

○新聞記事

◎ 後北条氏の實像に迫る

関東の有力戦国大名、後北条氏の実像に迫る企画展「後北条氏の城一合戦と支配」が来月24日まで、埼玉県熊谷市の県立熊谷山史跡の博物館で開催中。

後北条氏は、初代早雲が1495年に小田原城（神奈川県）を攻陥したのを機に関東に進出。関東管領・上杉氏などとの抗争を繰り返しながら、五代氏直の時代にはほぼ関東一円を支配するまでに成長した。こうした抗争の主な舞台となっ

た松山城（吉見町）や鉢形城（寄居町）、杉山城（熊谷市）など埼玉県比企郡周辺に点在する中世の山城から出土した陶磁器や武器のほか、様々な古文書など約160点の資料をもとに戦国時代の関東の様子を語っている。鉄砲玉や大筒玉の模型、農具を武器に転用した鎌など、戦乱の世をほうよつとさせる展示品が盛りだくさんだ。同博物館では近く、比企郡の山城などを14のコースに分けて紹介した散策ガイドブック『歩いて知る「比企の中世・再発見」』を発行。同館主催のイベント参加者らに無料で配布する予定だ。

読売新聞 平成20年1月18日 朝刊文化欄

比企の城郭を巡る
ハイキング楽しむ

12月16日、比企地域の城郭を巡る「比企城郭ハイキング」(主催:熊谷市文化財の複合的活用事業実行委員会主催)が行われ、約250人が参加した。

熊谷市で説明を受ける参加者たち

熊谷市には中世の歴史遺産が数多く点在し、優れた歴史的環境を形成している。今回は、今般はとがわ町の「小倉城跡」と「小倉城跡」を訪ね、学芸員の解説を聞きながら、約10キロのハイキングを楽しむ。

比企郡の城郭を巡る「比企城郭ハイキング」(主催:熊谷市文化財の複合的活用事業実行委員会主催)が行われ、約250人が参加した。

熊谷市で説明を受ける参加者たち

熊谷市には中世の歴史遺産が数多く点在し、優れた歴史的環境を形成している。今回は、今般はとがわ町の「小倉城跡」と「小倉城跡」を訪ね、学芸員の解説を聞きながら、約10キロのハイキングを楽しむ。

埼玉よみうり 平成19年12月28日

同様の新聞記事 毎日新聞(埼玉版) 平成19年12月12日 朝刊

埼玉新聞(県西版) 平成20年1月10日 朝刊

○テレビ、ラジオ

NHK ニュース1145

平成19年12月7日11時50分～53分

テレビ埼玉ニュース

平成19年12月26日17時(1分程度) 21時30分(1分程度)

ナック5 ニュース

平成20年1月7日8時15分から8時20分